



EDB Migration Portal Guide

リリース 3.5.0

EnterpriseDB

2022 年 02 月 05 日

目次

第 1 章	Release Notes	3
第 2 章	Supported platforms	5
2.1	サポートされているブラウザ	5
第 3 章	Using Migration Portal	7
3.1	Overview of the Migration Portal home page	8
3.2	Overview of the Migration Portal Projects page	9
第 4 章	Migrating a database	11
4.1	Performing a schema extraction	11
4.1.1	SQL ダンプファイルへのスキーマの抽出	11
4.1.2	スキーマとオブジェクトのサポート	14
4.2	Performing a schema assessment	16
4.2.1	スキーマ評価を実行する	16
4.2.2	評価レポートを生成する	19
4.3	Schema migration	20
4.3.1	既存のオンプレミス EDB Postgres Advanced Server ホストへの移行	20
4.3.2	新しいオンプレミス EDB Postgres Advanced Server インストールへの移行	21
4.3.3	クラウドへの移行	23
4.4	Data migration	24
第 5 章	Advanced data migration	25

Migration Portal は、オラクルデータベーススキーマを EDB Postgres Advanced Server プラットフォームに移行するための Web ベースのサービスです。Migration Portal は、オラクルデータベーススキーマを評価および分析し、変換します：-タイプ-テーブル-シーケンス-Constraints-トリガー-Views-ストアドプロシージャ-パッケージ-データベースリンク (dblinks) -マテリアライズドビュー-インデックス

移行により、EDB Postgres Advanced Server と互換性のある DDL が生成されます。

ユーザフレンドリポータルインタフェースは、評価と移行プロセスを簡素化します。ポータルにログインし、移行プロセスをスタートします。

EnterpriseDB は、企業が既存のデータベースシステムを長年 Postgres に移行するのを支援してきました。詳細については、[EnterpriseDB website](#) を参照してください。

第1章 Release Notes

Migration Portal の文書では、Migration Portal の最新バージョンについて説明しています。

Migration Portal 3.5.0 の新機能、機能強化、バグ修正、およびその他の変更には次のものが含まれます。

Type	Description
Enhancement	Migration Portal は、EDB Postgres Advanced Server への移行をサポートすることが認定されました。
Enhancement	Migration Portal は、SQL ダンプファイルのメタデータ情報を使用して、抽出されたスキーマを評価するようになりました。スキーマの DDL を抽出するために DDL 抽出スクリプトをダウンロードする必要がなくなりました。
Feature	修復ハンドラを更新して、CREATE TABLE 構文から OVERFLOW 構文を削除し、EDB Postgres Advanced Server 互換の構文と互換性を make にしました。（ERH-2011：ORGANIZATION_INDEX_COMPRESS）。
	NA
Feature	SETTRANSACTION ステートメントから NAME 句と関連する label 名前を削除する修復ハンドラを追加しました。（ERH-3002：SET_TRANSACTION）。
	NA
Enhancement	ユーザエクスペリエンスを向上させるためにユーザインタフェースを改善しました。

第2章 Supported platforms

Migration Portal は、 オラクル 11g、12c、18c、および 19c から EDB Postgres Advanced Server、または 14 への評価と移行をサポートしています。Migration Portal は、次のブラウザーでサポートされています。

2.1 サポートされているブラウザ

最高のユーザエクスペリエンスを得るには、Google Chrome ブラウザーを使用することをお勧めします。Migration Portal は、次のブラウザーでもサポートされています。

Browser	Supported version
Apple Safari on Macintosh OS	14 and above
Google Chrome	68 and above
Microsoft Edge	42 and above
Mozilla Firefox	60 and above

第3章 Using Migration Portal

Migration Portal を使用すると、データベーススキーマをオラクルから EDB Postgres Advanced Server に簡単に移行できます。評価用のスキーマをアップロードして、すぐにフィードバックと提案を得ることができます。ポータルでは、すべてのオブジェクトの評価済み DDL をダウンロードし、オンプレミスまたはクラウドで EDB Postgres データベースを作成できます。

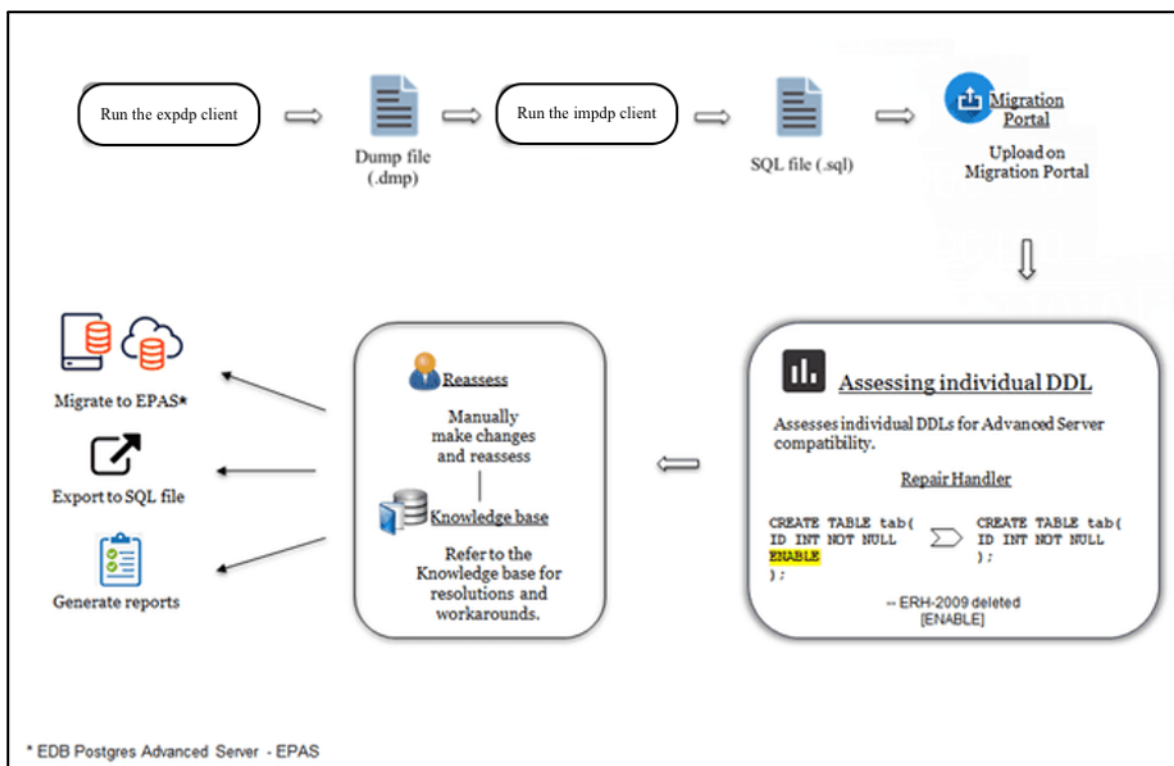


図 1: The assessment and migration process

注釈: * Migration Portal には現在、チームコラボレーション機能がありません。共同会議、スクリーン共有、およびダウンロード可能な評価レポートを使用して結果を共有することをお勧めします。

Migration Portal にアクセスするには：

1. ブラウザーを開き、<https://www.enterprisedb.com/> に移動します。
2. EnterpriseDB ページで、**PostgreSQL Software> Migration** を選択します。
3. [Migration Portal] ページで、[詳細を検索]> [Migration Portal を開く] を選択します。
4. 資格情報を使用してログインします。

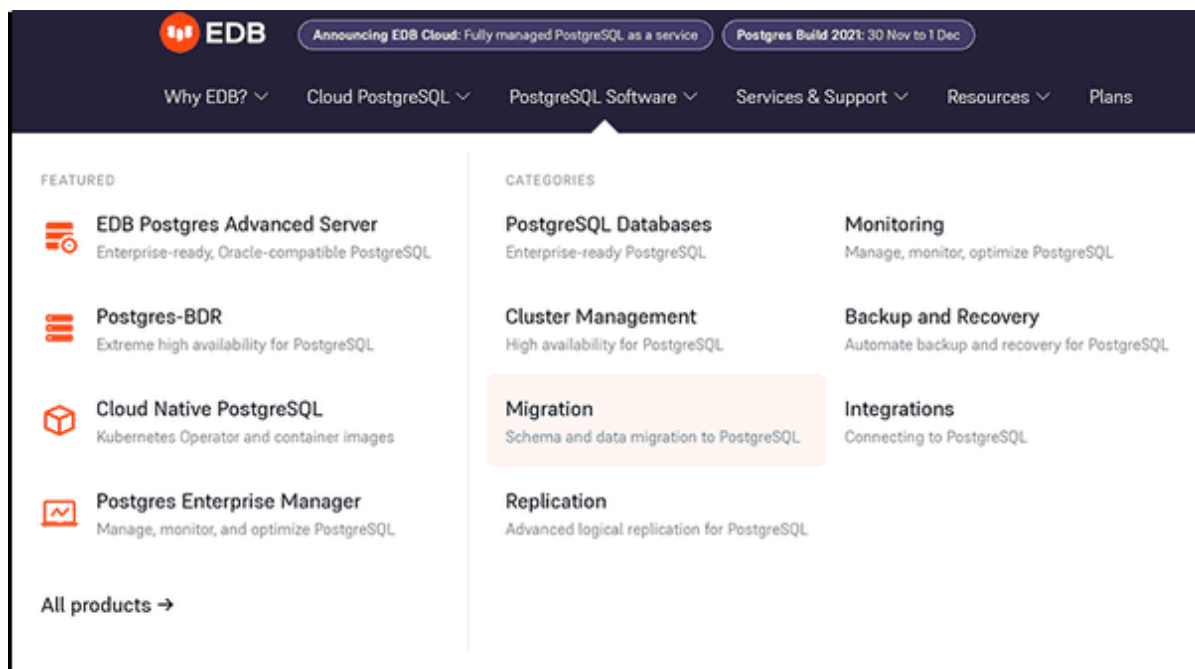


図 2: Migration Portal on the EnterpriseDB home page

3.1 Overview of the Migration Portal home page

Migration Portal のページでは、移行ツールにすばやくアクセスできます。

Migration Portal のページでは、次の Migration Portal 機能にアクセスできます。

- **プロジェクト**：プロジェクトパネルには、評価されたプロジェクトのリストが表示されます。
- **プロジェクトの作成**：+新規 を選択してプロジェクトを作成します。
- **プロジェクトの検索**：検索ボックスを使用してプロジェクトを検索します。
- **概要**：概要パネルには、選択したプロジェクトの詳細が表示され、スキーマ評価後の互換性のパーセンテージが表示されます。
- **移行先**：移行先を選択して、EDB Postgres Advanced Server 互換の .sql ファイルをダウンロードするか、オンプレミスまたはクラウド内の EDB Postgres Advanced Server にスキーマを移行します。詳細については、[Schema migration](#) を参照してください。
- **レポート**：レポートを選択して、スキーマ評価レポートをビューおよびダウンロードします。
- **削除**：削除を選択して、選択したプロジェクトを削除します。
- **警告記号**：プロジェクトまたはスキーマの互換性が 70 % より小さい場合、またはマルチプル試行しても DDL が成功しない場合は、ワーニングメッセージが表示されます。
- **DDL ファイルをアップロード**：新しいスキーマをアップロード を選択して、新しい DDL ファイルをアップロードします。
- **スキーマ**：スキーマパネルには、アップロードされた DDL ファイルからの評価結果が表示されます。

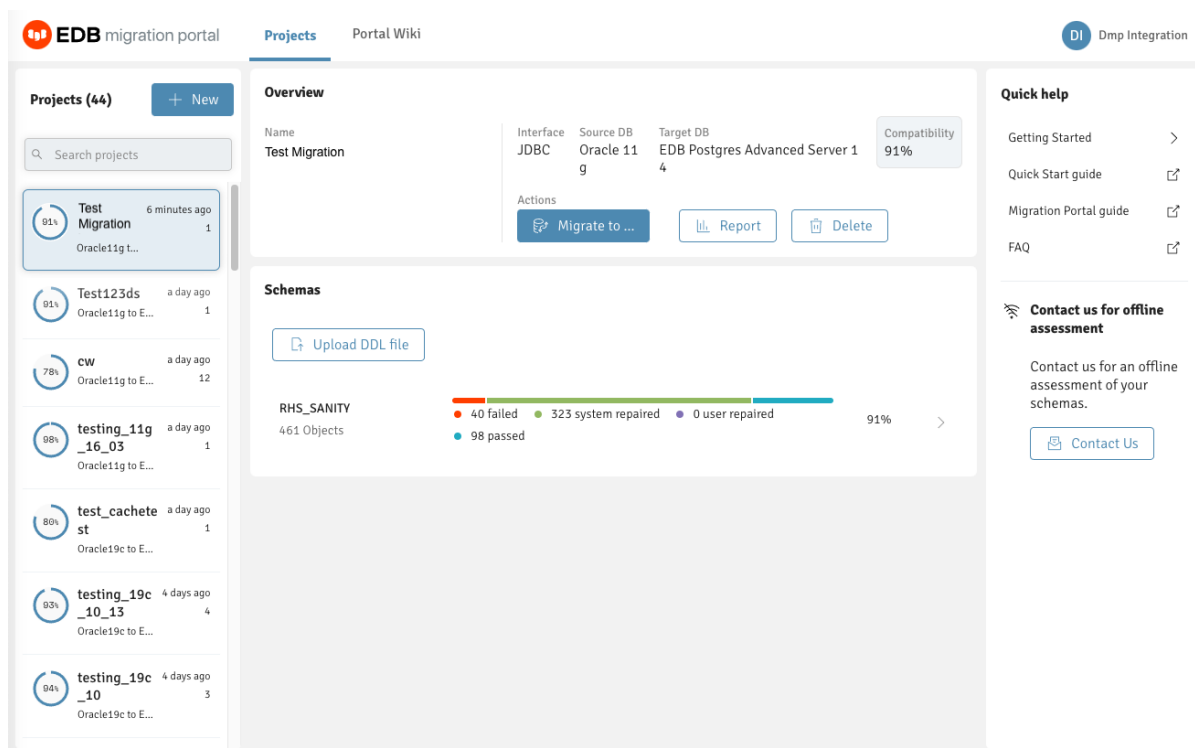


図 3: The Migration Portal home page.

- **クイックヘルプ** : クイックヘルプパネルには、いくつかの必要なリソースへのクイックリンクが含まれています。
- **Portal Wiki** : **Portal Wiki** を選択して、製品情報やその他のヘルプガイドへのリンクにアクセスします。

3.2 Overview of the Migration Portal Projects page

[Migration Portal プロジェクト] ページには、移行に関する詳細情報が表示されます。

次のリソースを使用して、移行プロジェクトに関する情報を収集します。

- **Compatible** : **Compatible** ゲージは、評価されたスキーマの互換性パーセンテージに基づいて色を表示します。
- **スキーマ数** : プロジェクト内のスキーマの数を表示します。
- **移行先** : 移行先を選択して、オンプレミスまたはクラウド内の EDB Postgres Advanced Server にスキーマを移行します。
- **オブジェクトの検索** : 検索ボックスを使用してオブジェクトを検索します。
- **フィルター** : [プロジェクト] ページの左パネルから、修復されたシステムおよびマニュアルで修復されたオブジェクトをフィルターできます。1 つ以上のフィルターの組み合わせを選択して、情報を絞り込むことができます。
- **オブジェクト** : 選択したスキーマのオブジェクトを表示します。

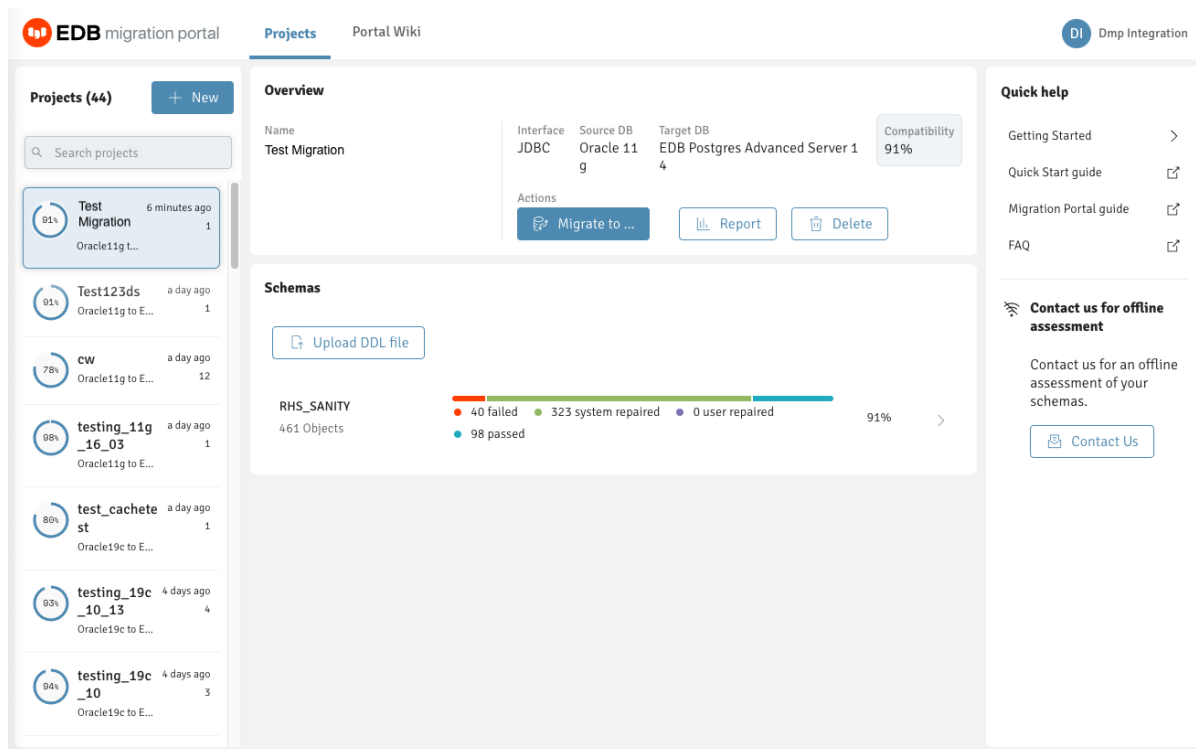


図 4: The Migration Portal Projects Page overview.

- **一般的な失敗**：選択したスキーマの失敗したオブジェクトの理由を表示します。

注釈: * プロジェクトの一般的な失敗については、.csv ファイルをダウンロードできます。

- **スキーマ**：評価の結果を表示します。
- **ツールチップ**：結果セットにカーソルを合わせると、合格、失敗、修復されたオブジェクトの数を含むツールチップが表示されます。
- **クイックヘルプ**：クイックヘルプパネルには、ナレッジベースの記事および修復ハンドラの文書へのリンクが表示されます。
- **検索**：検索ボックスを使用して、ナレッジベースのエントリを検索するか、特定の情報についてハンドラの文書を修復します。

第4章 Migrating a database

データベースを移行するには、次の手順を完了する必要があります。

1. *Performing a schema extraction* を実行します。
2. *Performing a schema assessment* を実行します
3. *Schema migration* を実行します。
4. *Data migration* を実行します。

4.1 Performing a schema extraction

Oracle のデータポンプユーティリティを使用して、オラクルデータベースから SQL ダンプファイルにメタデータを抽出できます。Migration Portal では、抽出されたスキーマを評価するためにこのファイルをアップロードする必要があります。

注釈: * MigrationPortal は、システムとブラウザのリソースの可用性に応じて、非常にラージ SQL ファイルに対して応答しなくなる場合があります。Migration Portal は、最大 1 ギガバイトの SQL ファイルをサポートします。SQL ファイルサイズが 1 ギガバイトを超える場合は、一度に抽出するスキーマの数を減らして SQL ファイルサイズを減らします。

4.1.1 SQL ダンプファイルへのスキーマの抽出

Migration Portal では、抽出されたスキーマを評価するために、SQL ダンプファイルのメタデータのみが必要であることに注意してください。

前提条件

- 自分のものではないスキーマのエクスポートを計画している場合は、DATAPUMP_IMP_FULL_DATABASE ロールが割り当てられていることを保証してください。それ以外の場合は、独自のスキーマのみをエクスポートできます。
- テーブルスペーススペースにオブジェクトを作成するのに十分なテーブルスペースクォータがあることを確認します。

次のいずれかの手順を実行します。

- データベース内の 1 つ以上のスキーマを抽出する
- データベース内のすべてのスキーマを抽出する

データベース内の 1 つ以上のスキーマを抽出する

1. SQL * Plus で、サーバファイルシステム上のディレクトリを指すディレクトリオブジェクトを作成します。例：

Linux の場合：

```
SQL> create directory DMPDIR as '/sample/file/path';
```

Windows の場合：

```
SQL> create directory DMPDIR as 'c:\sample\file\path\';
```

2. Data Pump ユーティリティを実行しているユーザに読み取り権限と書き込み権限を付与します。

```
SQL> grant read,write on directory DMPDIR to <Username>;
```

3. expdp コマンドを実行する前に、サーバー上に .par 拡張子を持つファイル（例、parameters.par）を作成します。次のように、ファイルに属性と値を追加します。

```
* $ cat parameters.par
* CONTENT=metadata_only
* INCLUDE=SYNONYM,SEQUENCE,TYPE,TABLE,CONSTRAINT,PROCEDURE,FUNCTION,PACKAGE,INDEX,
  ↳ MATERIALIZED_VIEW,VIEW,TRIGGER,DB_LINK
```

4. コマンドラインからエクスポートコマンドを実行して、**db.dump** ファイルを生成します。例、<Schema_1>、<Schema_2>、<Schema_3>などのメタデータ情報を抽出するには、次を実行します。

```
* $ expdp <Username>@<ConnectIdentifier> DIRECTORY=DMPDIR SCHEMAS=<Schema_1>,<Schema_
  ↳ 2>,<Schema_3> DUMPFILE=db.dump parfile=parameters.par
```

5. ダンプファイルから SQL ファイルを生成するには、インポートコマンドを実行します。

例、db.dump ファイルから **YourSchemas.SQL** を生成するには、次を入力します：

```
* * $ impdp <Username>@<ConnectIdentifier> DIRECTORY=<directory_name>
  ↳ TRANSFORM=OID:n SQLFILE=YourSchemas.sql DUMPFILE=db.dump
```

データベース内のすべてのスキーマを抽出する

注釈： 除外スキーマリストに属するユーザアカウントから次のプロシージャを実行しないでください。サポートされていないスキーマ **サポートされていないスキーマ** を参照してください。コマンドを実行しているユーザアカウントがスキーマの除外リストに含まれている場合、impdp コマンドは失敗します。

1. SQL * Plus で、サーバファイルシステム上のディレクトリを指すディレクトリオブジェクトを作成します。例：

Linux の場合：

```
SQL> create directory DMPDIR as '/sample/file/path';
```

Windows の場合：

```
SQL> create directory DMPDIR as 'c:\sample\file\path\';
```

2. Data Pump ユーティリティを実行しているユーザに読み取り権限と書き込み権限を付与します。

```
SQL> grant read,write on directory DMPDIR to <Username>;
```

3. expdp コマンドを実行する前に、サーバーに .par 拡張子を持つファイル（例、parameters1.par）を作成します。次のように、ファイルに属性と値を追加します。

```
* $ cat parameters1.par
* CONTENT=metadata_only
* FULL=Y
* INCLUDE=SYNONYM,SEQUENCE,TYPE,TABLE,CONSTRAINT,PROCEDURE,FUNCTION,PACKAGE,INDEX,
↳MATERIALIZED_VIEW,VIEW,TRIGGER,DB_LINK
```

4. コマンドラインからエクスポートコマンドを実行して、*db を生成します。次のように* ファイルをダンプします。

```
* $ expdp <Username>@<ConnectIdentifier> DIRECTORY=DMPDIR DUMPFILE=db.dump_
↳parfile=parameters1.par
```

5. impdp コマンドを実行する前に、サーバー上に .par 拡張子を持つパラメータファイル（例、parameters2.par）を作成します。次のように、ファイルに属性と値を追加します。

```
* $ cat parameters2.par
* EXCLUDE=SCHEMA:"IN(select username as schema_name from sys.dba_users where_
↳LOWER(username) LIKE 'pg_%' OR username IN
* ('ANONYMOUS','APEX_PUBLIC_USER','APEX_030200','APEX_040000','APEX_040200',
↳'APPQOSSYS','AUDSYS','CTXSYS','DMSYS','DBSNMP',
* 'DBSFUSER','DEMO','DIP','DMSYS','DVF','DVSYS','EXFSYS','FLOWS_FILES','FLOWS_
↳020100','FRANCK','GGSYS','GSMADMIN_INTERNAL',
* 'GSMCATUSER','GSMROOTUSER','GSMUSER','LBACSYS','MDDATA','MDSYS','MGMT_VIEW',
↳'OJVM SYS','OLAPSYS','ORDPLUGINS','ORDSYS',
* 'ORDDATA','OUTLN','ORACLE_OCM','OWBSYS','OWBYSS_AUDIT','PDBADMIN','RMAN','REMOTE_
↳SCHEDULER_AGENT','SI_INFORMTN_SCHEMA',
* 'SPATIAL_CSW_ADMIN_USR','SPATIAL_WFS_ADMIN_USR','SQLTXADMIN','SQLTXPLAIN','SYS$UMF
↳','SYS','SYSBACKUP','SYSDG','SYSKM',
* 'SYSRAC','SYSTEM','SYSMAN','TSM SYS','WKPROXY','WKSYS','WK_TEST','WMSYS','XDB','XS
↳$NULL'))"
```

6. ダンプファイルから SQL ファイルを生成するには、インポートコマンドを実行します。

例、db.dump ファイルから **YourSchemas.SQL** を生成するには、次を入力します。：

```
* * $ impdp <Username>@<ConnectIdentifier> DIRECTORY=<directory_name>
→TRANSFORM=OID:n SQLFILE=YourSchemas.sql DUMPFILE=db.dump
```

4.1.2 スキーマとオブジェクトのサポート

サポートされるスキーマとサポートされないスキーマおよびオブジェクトについては、次のセクションを参照してください。

サポートされていないスキーマ

SQL ダンプファイルの生成中に除外する必要があるオラクルシステムスキーマのリストについては、次の表を参照してください。

ANONYMOUS	APEX_PUBLIC_USER	APEX_030200	APEX_040000	APEX_040200
APPQOSSYS	AUDSYS	CTXSYS	DMSYS	DBSNMP
DBSFUSER	DEMO	DIP	DMSYS	DVF
DVSYS	EXFSYS	FLows_FILES	FLows_020100	FRANCK
GGSYS	GSMAD-MIN_INTERNAL	GSMCATUSER	GSMROO-TUSER	GSMUSER
LBACSYS	MDDATA	MDSYS	MGMT_VIEW	OJVMSYS
OLAPSYS	ORDPLUGINS	ORDSYS	ORDDATA	OUTLN
ORACLE_OCM	OWBSYS	OWBYSS_AUDIT	PDBADMIN	RMAN
RE-MOTE_SCHEDULER_AGENT	SI_INFORMTN_SCHEMA	MRA-TIAL_CSW_ADMIN_USR	SPA-USER_WFS_ADMIN_USR	SQLTXADMIN
SQLTXPLAIN	SYS\$UMF	SYS	SYSBACKUP	SYSDBG
SYSKM	SYSRAC	SYSTEM	SYSMAN	TSM SYS
WKPROXY	WKSYS	WK_TEST	WMSYS	XDB
XS\$NULL				

注釈： EDB Postgres Advanced Server は、**pg_** で始まるスキーマ名をサポートしていません。スキーマ名は、オラクルからの抽出中に除外する必要があります。

サポートされているオブジェクトタイプ

Migration Portal は、次のオブジェクトタイプの移行をサポートしています。

- Synonyms
- DB リンク
- タイプとタイプ本体
- シーケンス
- テーブル
- Constraints
- インデックス (LOB インデックスおよびマテリアライズドビューのインデックスを除く)
- Views
- マテリアライズドビュー
- トリガー
- Functions
- Procedures
- パッケージ

注釈: * COMMENTS 列、テーブル、およびマテリアライズドビューもサポートされています。

サポートされていないオブジェクトタイプ

- Editions
- オペレーター
- スケジューラー
- LOB インデックスおよびマテリアライズドビューのインデックス XML スキーマ
- プロファイル
- ロールとオブジェクトの付与
- テーブルスペース
- ディレクトリ
- ユーザー
- RLS ポリシー
- Queues

4.2 Performing a schema assessment

EDB Postgres Advanced Server との互換性について、オラクルデータベーススキーマを評価できます。評価レポートを生成することもできます。

4.2.1 スキーマ評価を実行する

1. [Migration Portal](#) に移動します。
2. EDB 資格情報を入力します。
3. **New** を選択してプロジェクトを作成します。
4. ダイアログボックスの **[プロジェクト名前]** フィールドにプロジェクト名前を入力します。
5. プロジェクトの詳細を指定します。
 - -アプリケーションインタフェースを選択します。-ソースのソース DB とバージョンを選択しソース。-ターゲットのターゲット DB とバージョンを選択します。
6. をアップロードするには。データポンプユーティリティによって生成された SQL ファイル、**[ファイルを選択]** を選択します。

注釈: -.SQL ファイルを変更しないでください。

7. プロジェクトの作成時にインデックスプレフィックス (idx) を指定するには、**[インデックスプレフィックスの追加]** ボックスを選択します。EDB Postgres Advanced Server はテーブルとインデックスに同じ名前をサポートしていないため、この選択により、より良い評価結果が保証されます。

8. **[作成と評価]** を選択して、新しいプロジェクトを作成し、スキーマを評価します。

分析ツールはすべてのコンストラクトをレビューし、修復アクションを実行して、EDB Postgres Advanced Server との互換性を改善します。マニュアルの介入が必要な残りのエラーにフラグを立てます。

9. 100 %の成功率を示さない DDL オブジェクト (TABLES など) を確認します。
10. EDB Postgres Advanced Server と互換性のないオブジェクトを選択して、詳細をビューします。中央のパネルの下部で、修復アクションの詳細をビューできます。
11. 右側のパネルのナレッジベース情報を参照して、EDB Postgres Advanced Server とすぐに互換性のないオブジェクトの可能な回避策を見つけます。ポータル wiki ページでナレッジベース情報をビューすることもできます。
12. **[ナレッジベース]** タブで、EDB Postgres Advanced Server との互換性のないオブジェクトのエラーメッセージを入力し、**[検索]** を選択できます。
 - オブジェクト詳細パネルには、失敗したオブジェクトの回避策または解決策が表示されます。そのオブジェクトの **[評価]** タブで手動で変更を make、**[再評価]** を選択できます。

New project ×

Project name

Application interface

☒ JDBC ☐ ODBC ☐ .NET ☐ OCI ☐ ProC ☐ Other

Source DB Version

Oracle 11g

Target DB Version

EDB Postgres Advance... 13

DDL file [\(How to get a DDL file?\)](#)

No file chosen 📁 Choose file

☐ Add suffix to make object names unique ⓘ

Description(Optional)

Say something about the project...

200 characters left

✕ Cancel ✓ Create & assess

図 1: The Migration Portal New project dialog.

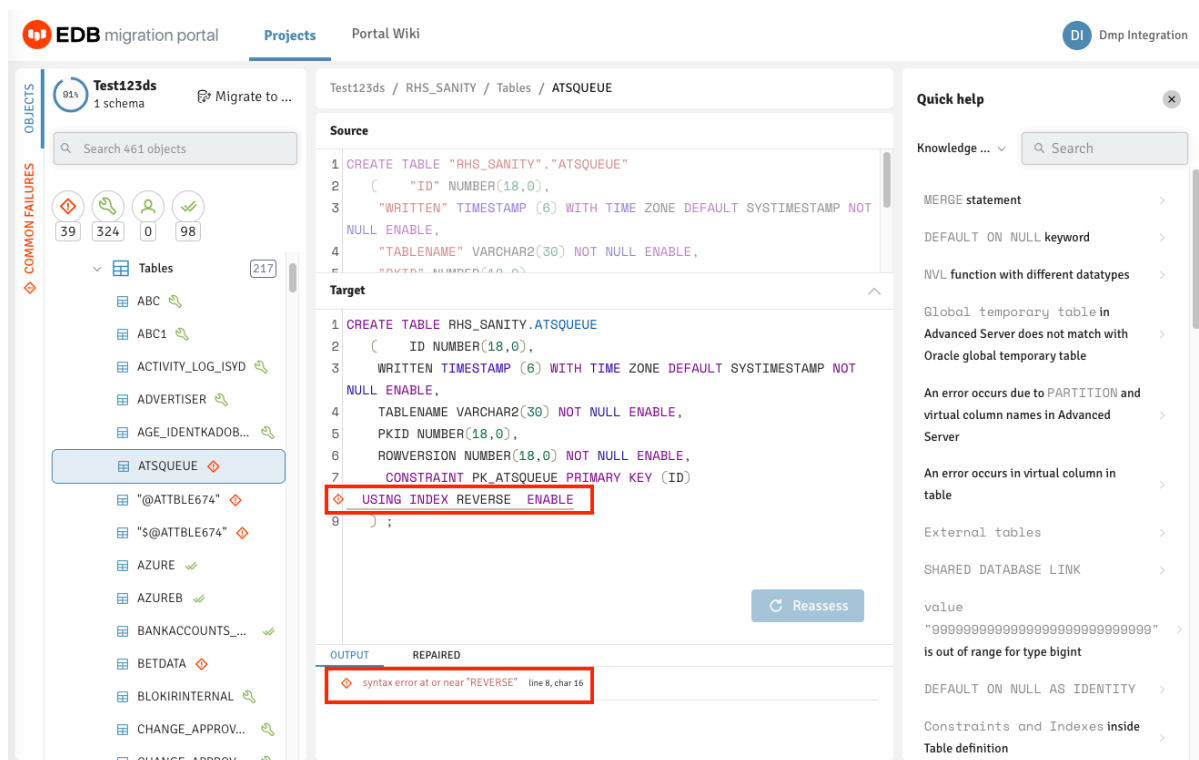


Figure 2: Incompatible objects are identified.

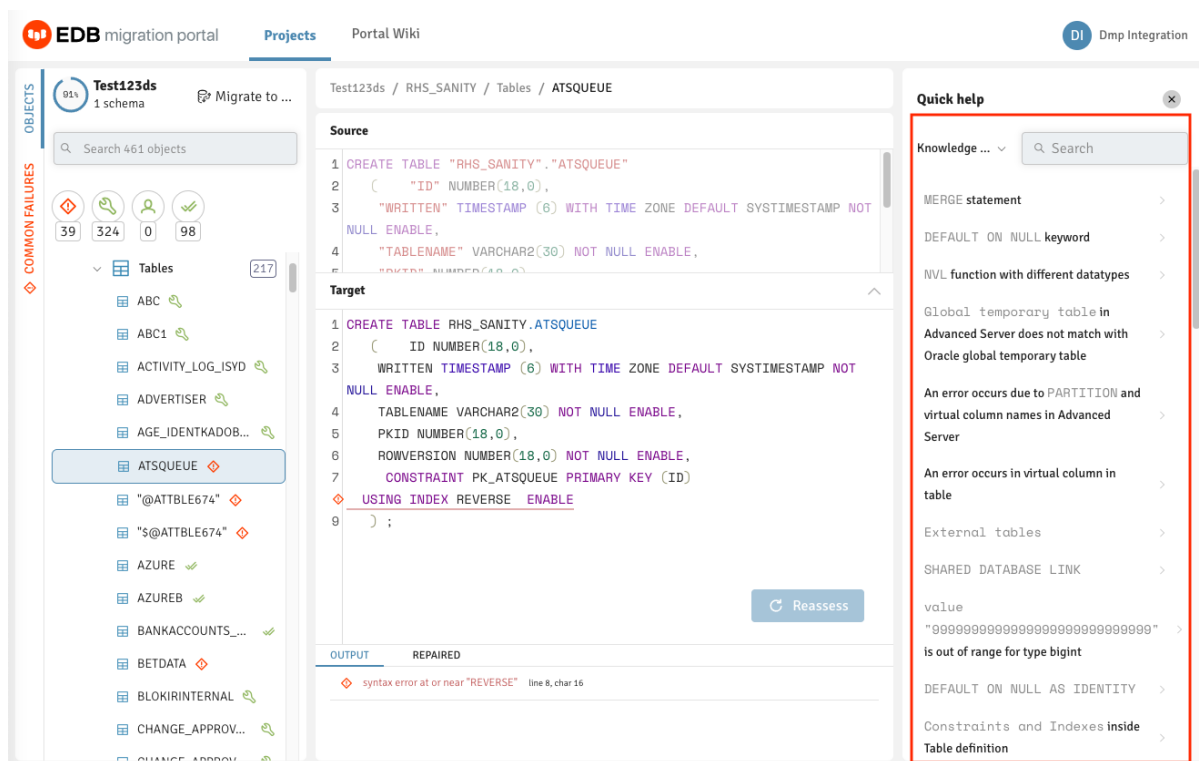


Figure 3: Incompatible objects are identified.

注釈: * 再評価中に失敗したオブジェクトが合格すると、そのオブジェクトの依存オブジェクトも再評価されます。

同様に、互換性のないすべてのオブジェクトを互換性のあるものに make ことができます。

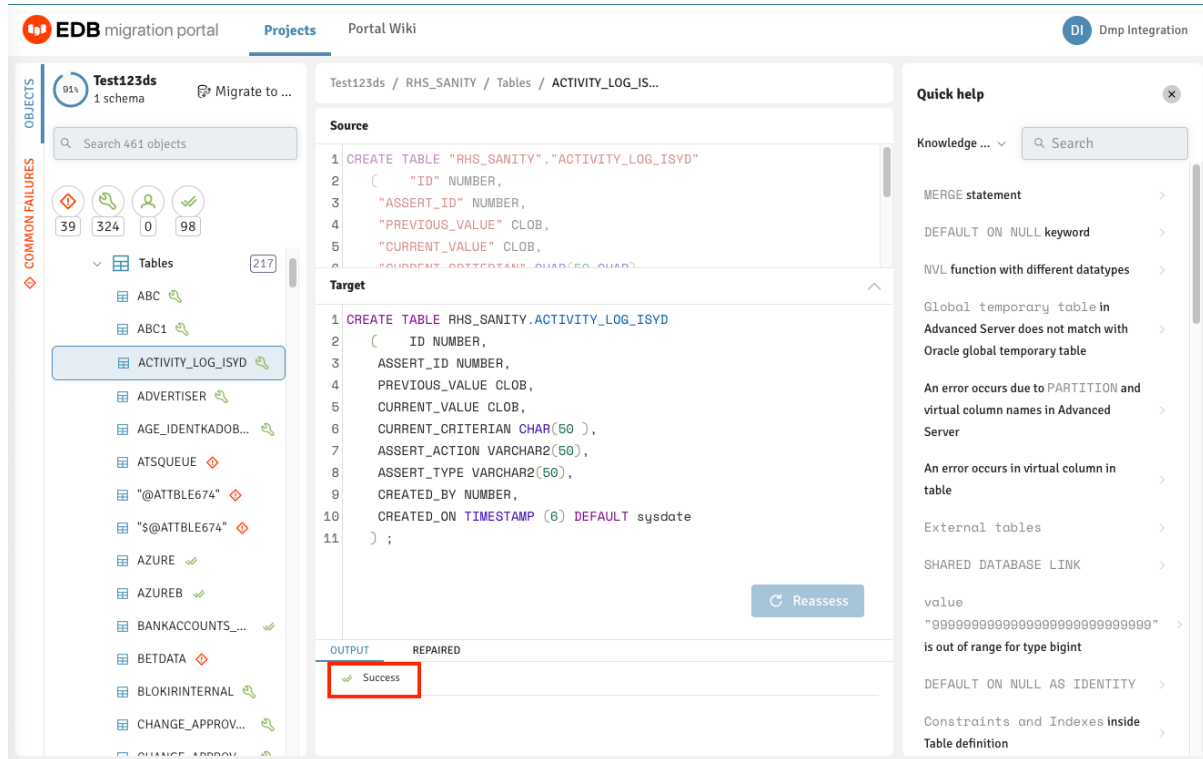


図 4: Workaround or resolution for incompatible objects.

注釈: * 互換性のないオブジェクトに関する情報または回避策がナレッジベースにない場合は、サポートチームにヘルプしてください。

DDL の操作が終了したら、変更した EDB 互換 DDL を .sql ファイルとしてダウンロードするか、スキーマを移行できます。 [Schema migration](#) を参照してください。

4.2.2 評価レポートを生成する

Migration Portal レポートは、プロジェクトに対して評価されたスキーマの高レベルの評価概要を提供します。さらに、このレポートは、失敗したオブジェクトと失敗の原因に関する詳細を提供します。

1. [レポート] を選択します。
2. レポートに含めるスキーマを選択します。
3. オンスクリーンレポートを生成するには、[生成] を選択します。

オプションで **[* PDF を生成*]** を選択して、レポートを PDF フォーマットで保存できます。選択したスキーマの DDL に適用された個別のリペアハンドラーの数をビューすることもできます。

4.3 Schema migration

スキーマのエラーを解決した後、pgAdmin、Toad Edge、PSQL クライアントなどのクライアントアプリケーションでスキーマを使用できます。または、スキーマを EDB Postgres Advanced Server に移行できます。

次のスキーマのいずれかに移行できます。

- 既存のオンプレミス EDB Postgres Advanced Server
- 新しいオンプレミス EDB Postgres Advanced Server
- クラウド内の EDB Postgres Advanced Server

4.3.1 既存のオンプレミス EDB Postgres Advanced Server ホストへの移行

Windows または Linux プラットフォーム上の既存のオンプレミス EDB Postgres Advanced Server にスキーマを移行できます。

Windows でスキーマを移行する

1. **[既存のオンプレミス EDB Postgres Postgres Advanced Server]** を選択します。
2. 1 つ以上のスキーマを選択して、EDB Postgres Advanced Server に移行します。

注釈: * スキーマの互換性が 100 % でない場合、バナーが表示されます。必要に応じて、お問い合わせフォームに記入してください。

3. 評価されたスキーマをダウンロードするには、**[* SQL ファイルのダウンロード*]** を選択します。
4. **[* Windows*]** を選択します。
5. スキーマをインポートするには、次を実行します。

- CLI の場合：

```
* \i c:\users\...\<project_name>.sql
```

- cmd / シェルで：

```
* edb-psql -f <project_name>.sql
```

注釈: * または、インポートに pgAdmin クライアントを使用することもできます。

変換されたスキーマは、ターゲットサーバーに移行します。

Linux でスキーマを移行する

Linux 上の既存のオンプレミス EDB Postgres Advanced Server にスキーマを移行できます。

1. **既存のオンプレミス EDB Postgres Advanced Server** を選択します。
2. 1 つ以上のスキーマを選択して、EDB Postgres Advanced Server に移行します。
3. 評価されたスキーマをダウンロードするには、[* *SQL ファイルのダウンロード* *] を選択します。
4. [* *Linux* *] を選択します。
5. スキーマをインポートするには、次の edb-psql クライアントコマンドを呼び出します。

```
* sudo su - enterprisedb
* edb-psql edb
* create database <database_name>;
* \\connect <database_name>
* \\i <project_name>.sql
```

注釈: * または、インポートに pgAdmin クライアントを使用することもできます。

変換されたスキーマは、ターゲットサーバーに移行します。

4.3.2 新しいオンプレミス EDB Postgres Advanced Server インストールへの移行

Windows または Linux プラットフォームのオンプレミスに新しい EDB Postgres Advanced Server をインストールし、スキーマを移行できます。

Windows でスキーマを移行する

Windows 上の新しいオンプレミス EDB Postgres Advanced Server にスキーマを移行します。

1. [**新しいオンプレミス EDB Postgres Postgres Advanced Server**] を選択します。
2. EDB Postgres Advanced Server で移行する 1 つ以上のスキーマを選択します。
3. オペレーティングシステムの場合、**Windows** を選択します。
4. [**Windows インストーラのダウンロード**] を選択します。

5. インストール手順については、**Windows EDB Postgres Advanced Server** インストールガイド を選択します。
6. 評価されたスキーマをダウンロードするには、[SQL ファイルのダウンロード] を選択します。
7. 次を実行して、スキーマをインポートできます。

- -CLI で

```
*      \i c:\users\...\<project_name>.sql
```

- -cmd /シェルで

```
*      edb-psql -f <project_name>.sql
```

注釈: * または、インポートに pgAdmin クライアントを使用することもできます。

Linux でスキーマを移行する

Linux 上のオンプレミス EDB Postgres Advanced Server にスキーマを移行します。

1. [新しいオンプレミス EDB Postgres Advanced Server] を選択します。
2. EDB Postgres Advanced Server で移行する 1 つ以上のスキーマを選択します。
3. オペレーティングシステムの場合、**Linux** を選択します。
4. 次のオプションのいずれかを選択して、EDB Postgres Advanced Server をインストールできます。
 - -リポジトリ-その他のオプション
5. インストールプロシージャの詳細については、Linux 用の **EDB Postgres Advanced Server インストールガイド** を選択してください。
6. 評価されたスキーマをダウンロードするには、[SQL ファイルのダウンロード] を選択します。
7. スキーマをインポートするには、次を実行します。

```
*      sudo su - enterprisedb
*      edb-psql edb
*      create database <database_name>;
*      \connect <database_name>
*      \i <project_name>.sql
```

注釈: * または、インポートに pgAdmin クライアントを使用することもできます。

変換されたスキーマは、ターゲットサーバーに移行します。

4.3.3 クラウドへの移行

EDB Postgres Advanced Server のスキーマをクラウドに移行します。

1. **EDB Postgres Advanced Server on Cloud** を選択します。
2. 1 つ以上のスキーマを選択して、EDB Postgres Advanced Server に移行します。
3. クラウドプラットフォームを選択します（例：**BigAnimal**）。
4. 新しいクラスターを起動するには、**[Go to BigAnimal]** を選択します。
または、既存のクラスターを実行している場合は、**[次へ]** を選択します。

注釈: 詳細については、[BigAnimal](#) ページを参照してください。

5. **Connect** ページで必要な接続の詳細を入力します。

Migrate your schemas to the cloud

Progress: ✓ Select Schemas — ✓ Select Platform — ✓ Launch Cluster — 4 Connect — 5 Deploy — 6 Finish

Project Name	Interface	Source DB	Target DB	Compatibility
TestMigration	JDBC	Oracle 11g	EDB Postgres Advanced Server 13	99%

Connect to BigAnimal cluster

Target Database:

Host Name/Address: Port:

Note: Ensure that your database server is accessible from Migration Portal.

Maintenance Database:

Username:

Password:

[↻ Test Connection](#)

[Cancel](#) [← Previous](#) [→ Next](#)

図 5: Connecting to the cloud cluster

7. 接続の詳細を確認するには、**[テスト接続]** を選択します。

注釈: * [接続の編集] を選択して、接続の詳細を変更し、接続の詳細を再テストできます。

8. 接続が成功したら、[次へ] を選択します。

変換されたスキーマは、ターゲットサーバーに移行します。

4.4 Data migration

スキーマの移行を実行した後、データを移行します。

1. Migration Toolkit を使用してデータを移行します。Migration Toolkit の使用に関する詳細については、[Migration Toolkit](#) を参照してください。
2. Migration Toolkit `toolkit.properties` ファイルを構成し、ソースファイルとターゲットデータベースの接続情報がプロパティファイルで利用できることを確認します。

```
SRC_DB_URL = jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:ORCL
SRC_DB_USER = user_name
SRC_DB_PASSWORD = password
TARGET_DB_URL= jdbc:edb://localhost:5444/migration
TARGET_DB_USER = enterprisedb
TARGET_DB_PASSWORD = password
```

詳細については、[Building the toolkit.properties File](#) を参照してください。

3. `-dataOnly` モードで Migration Toolkit を呼び出します。テーブル間で外部キーの依存関係を解決するには、`-truncLoad` キーワードを含めます。

例、次のコマンドは、`hr` 名前付けのスキーマにデータを移行します。

- `runMTK.sh -dataOnly -targetSchema hr -truncLoad HR`
- このコマンドは、指定された `source_schema` を `target_schema` に移行します。データは、ローカルにインストールされた EDB Postgres Advanced Server インスタンスに、`enterprisedb` 名前付けのデータベーススーパーユーザと `password` というパスワードでロードされます。
-
- テーブルはデータロードを試みる前に切り捨てられます。

第5章 Advanced data migration

</ div>

並列データロードを必要とする大規模なデータベースでは、次のいずれかを使用できます。

EDB Postgres Advanced Server データベースリンク機能（オラクルデータベースとの互換性のため） - Dblink
またはデータベースリンクスタイルの移行（データに CLOB データが含まれる場合）

詳細については、[Migration Toolkit](#) を参照してください。